

# 2022 全国骨髓バンク ボランティアの集い in 東京



**日 時:2022年5月28日(土)14:00~ WEB 開催**

**主 催:特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会**

〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4 KTビル 3階

TEL:03-5823-6360/FAX:03-5823-6365

E-Mail:office@marrow.or.jp <https://www.marrow.or.jp>

# 2022 全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京

開会 (14:00~14:05)

主催者挨拶 特定非営利活動法人

全国骨髓バンク推進連絡協議会 副会長 渋谷 俊徳

『<原点回帰>骨髓・末梢血採取で骨髓提供はできたけれど・・・

まだ足りない!「ぼくにはドナーがいません!」』

骨髓提供体験談 (14:05~14:30)

・骨髓提供ドナー (骨髓採取)

山中 真 様

・骨髓提供ドナー (末梢血採取)

木村 亮太 様

動画ビデオ上映 (14:30~15:30)

『ぼくは、骨髓ドナーを探しています!』

田中 浩章 様

田中 謙智 君

パネルディスカッション (15:30~16:00)

パネリスト

・患者家族

田中 浩章 様

・骨髓提供ドナー (骨髓採取)

山中 真 様

・骨髓提供ドナー (末梢血採取)

木村 亮太 様

コーディネーター

・全国骨髓バンク推進連絡協議会

副会長 大谷 貴子

副理事長 若木 換

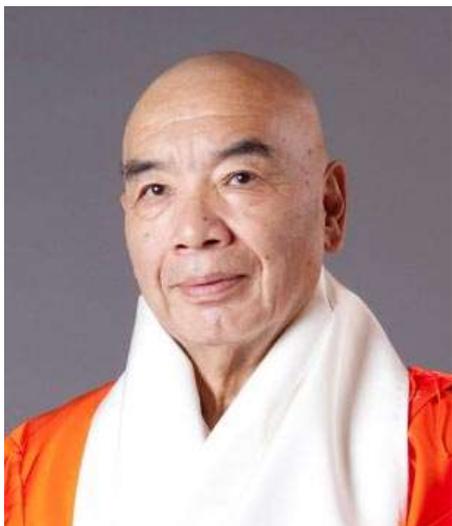
閉会の言葉 (16:00)

特定非営利活動法人

全国骨髓バンク推進連絡協議会 副会長 大谷 貴子

閉会

## 主催者挨拶



特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
会長 仲田 順和

「2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」の開催にあたりまして、日頃より温かなご支援を頂いております皆様に心より厚くお礼申し上げます。

一年前、「来年こそは全国大会において皆様と直接お会いできるであろう」と期待しておりましたが、今年もハイブリッドによる開催となりました。昨

今、社会においては決して明るいニュースばかりではありませんが、患者さんを取り巻く環境は徐々に変わりつつあります。

2020 年はコロナ禍の影響で登録者数が一時減少しましたが、2021 年では徐々に持ち直してまいりました。これもボランティアの皆様、関係者の皆様の献身的な努力の賜物と深く感謝しています。また、全国協議会が運営する移植患者さんを経済的に支援する「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」については、クラウドファンディングにより多くの皆様から善意をお寄せいただきました。これも関係者の皆様が力を合わせて広く社会に支援を要請した結果であり、血液難病の患者さんに対する関心を持ってくださった大きな成果であったと考えます。

一方、国をはじめ日本骨髄バンク等にドナー登録手続きのオンライン化やスワブ採取法の早期導入、さらにはコーディネート迅速化の実現について要望してきましたことについては、改善をいただくこととなりました。また、昨年からは、がん患者さん等への妊孕性温存費用の助成が国の事業として開始され、更には本年からは不妊治療が保険に適用になるなど、これまで当協議会として要望してきたことが実現に結び付き、若年患者さんの希望につながる大きな支えになることをのぞんでおります。

いずれ収束するであろうと漠然ととらえられていたコロナ禍も止むことがない状況ではありますが、ボランティアの皆様の地道なご努力のおかげでドナー登録者数が回復したり、経済的な支援を行う基金が継続できたりしたことは本当に意義の大きな出来事であったと感じています。様々な場面で「人が人を想う」素晴らしい出来事に出会うことができた 1 年が 2022 年度に続くように祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

## 祝辞



### 厚生労働省健康局難病対策課 移植医療対策推進室

室長 木庭 愛

この度は「2022 全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」が開催されますことを心より御慶び申し上げます。

平成3年に骨髄バンク事業が開始されて以来、関係者の方々の長年にわたる御尽力・御協力により、骨髄バンクにおけるドナー登録者数は、約54万人（令和4年3月末現在）となっており、令和3年度においては約3万2千人の新規ドナ

ー登録が行われました。また、日本骨髄バンクを介した骨髄や末梢血幹細胞の移植は、毎年度1千件超が行われ、急性白血病等で苦しんでいた多くの患者の方々の命が救われているところです。

このように、本事業が発展しましたのは、ドナー登録をされた方々や実際に提供をされた方々の善意に加え、骨髄バンク事業を支えていただいている全国のボランティアの方々、全国骨髄バンク推進連絡協議会、日本赤十字社、地方自治体等の多くの関係者の方々の長年にわたる御支援の賜物であり、ここに深く感謝を申し上げます。

厚生労働省といたしましても、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づき、造血幹細胞の適切な提供の推進を図るため、若年層の骨髄等ドナー登録者の確保、コーディネート期間短縮に向けた取組や造血幹細胞移植後の患者のフォローアップ体制の構築を引き続き推進するとともに、造血幹細胞移植に必要な基盤が安定的に運営できるよう、支援を行ってまいります。

また、令和3年度に実施した「移植医療に関する世論調査」（内閣府）の結果では、骨髄バンクについて「知っている」と回答した方は75.7%となっており、国民の骨髄バンクへの認知度は高いと受け止めている一方で、知っていると回答した方のうち骨髄バンクに「ドナー登録している」と回答した方は1.4%となっております。登録していない理由として「痛み、後遺症など提供による身体的不安を感じるから」や「ドナー登録方法や骨髄を提供するまでの流れがわからないから」の回答が多かったことから、こうした結果を踏まえて、国民の皆様には御理解と御協力をいただけるよう、更なる普及啓発に取り組むとともに、造血幹細胞移植医療の一層の推進に努めてまいります。

今後も、関係者の方々の声に耳を傾け、御支援・御協力をいただきながら、様々な課題解決に向けて、共に取り組んでいきたいと考えていますので、是非とも御協力をお願い申し上げます。

結びに、全国骨髄バンク推進連絡協議会の活動を通し、骨髄バンク事業に対する国民の理解が一層深まり、善意の輪が広がる契機となることを期待しますとともに、皆様方のますますの御活躍と御健勝をお祈り申し上げます。

## 祝辞

---



骨髄・さい帯血バンク  
議員連盟会長

衆議院議員 **野田 聖子**

この度の「2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」のご開催を祝し、心よりお慶び申し上げます。

私ども「骨髄・さい帯血バンク議員連盟」は党派を超えた衆参両院の有志により、骨髄バンク事業とさい帯血バンク事業を応援するために 1994 年に結成されました。以後、貴会を始め、日本赤十字社、日本骨髄バンク並びに関係団体の皆さまより、議員連盟に対する貴重なご提言をいただきながら様々な決議をとりまとめ、その結果、日本骨髄バンクの安定的運営の確保や患者負担金の一部軽減など、多くの成果を挙げてきました。今後も若年層のドナー登録の拡大や登録しやすい環境整備など、骨髄バンク、さい帯血バンク事業がより推進されるよう課題解決に取り組んで参る所存です。

コロナ禍により、不安を感じている患者さんやそのご家族が多くいらっしゃいます。そのような状況のなか、ボランティア活動を続けてくださっている皆様に対し、心より敬意を表しますとともに、貴会の今後益々のご発展とご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 祝辞



### 公益財団法人 日本骨髄バンク 理事長 小寺 良尚

「2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」開催に際しまして、心よりお慶び申し上げます。

全国骨髄バンク推進連絡協議会におかれましては、白血病フリーダイヤルの開設、患者さんへの情報提供のための冊子作成、患者さんへの経済的支援、そして全国のボランティア団体への協力など、多岐に渡るご

活動を担っておられます。長年にわたる多くの患者さんへのサポートと、骨髄バンク事業へのご支援に、厚く御礼申し上げます。

現在、日本骨髄バンクのドナー登録者数は約 53 万 7000 人、累計移植件数は約 2 万 6000 例を超えております。

これもひとえに、ドナーの皆様をはじめ、貴協議会や全国のボランティアの皆様、関係機関の方々のお力添えがあってこそであり、深く感謝申し上げます。

2021 年度の新規ドナー登録者数は 3 万 2371 人で、コロナ禍で減少した前年度（2 万 7218 人）に比べ 19%増加しました。しかしながら、年齢超過や健康理由などによる登録取消者数は年 2 万人を超え、今後も増加が見込まれます。

今年度は、若年層に向けたドナー登録の呼びかけや、応諾率を高めるための情報提供に、特に力を入れてまいります。

また、コーディネート期間短縮につきましても、3 月末より、適合ドナーからの提供意思や健康状況についての回答を、Web 上で可能にするなど、様々な施策を導入し、実行しております。

さて、当法人は、9 月 24 日（土）、広島市にて「骨髄バンク推進全国大会 2022in 広島」を開催します。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

最後になりますが、全国骨髄バンク推進連絡協議会の益々のご発展と、「2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」に参加される皆様のご健勝をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

## 祝辞



### 日本赤十字社 血液事業本部長 高橋 孝喜

この度は「2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

貴協議会を始め、関係者の皆様のご尽力により骨髄バンク発足時から数え延べ 88 万人（令和4年3月末時点）の方が骨髄バンクにドナー登録をされ、これまで2万6千人の患者さんに骨髄・末梢血幹細胞移植が行われてきました。また、がんに苦しむ若年層の患者さんへのサポートをはじめ、妊娠する力を残す妊孕性の温存療法の推進などその幅広い支援活動によって移植をめぐる事業の推進と発展に深く寄与されてきました。これもひとえに貴協議会をはじめドナー登録をされた方々や実際に骨髄提供をされた善意の方々、造血幹細胞事業を支えるボランティアの皆様、医療関係者の皆様など多くの関係者の皆様の長年にわたるご支援ご協力の賜物であり、深く敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染の確認がされてから早 2 年を迎えましたが、未だ収束の兆しが見えない状況が続いています。日本赤十字社は、一昨年2月に横浜港クルーズ船（ダイヤモンド・プリンセス号）への医療救護スタッフの派遣からはじまり、感染が拡大し続けるパンデミックの状況下においても積極的に感染者を受け入れるなど医療の確保に努めて参りました。赤十字の基本原則「人間の命と健康、尊厳を守る」のもと、いかなる差別もせず多くの命を大切にすることは我々の使命でもあります。引き続き人道を通して多くの関係者の皆様による力強いご支援とご協力、さらにはご理解を得ながら地域の医療を支えるための活動を続けて参ります。

一方で、造血幹細胞事業に関しても、尊い命を守るために日本赤十字社は造血幹細胞提供支援機関としての重大な使命を果たすべく、今後とも貴協議会をはじめ関係者の皆様と相互に連携しながら支援事業を進めて参ります。さらに臍帯血供給事業の充実、推進とともに未来に繋がる持続可能な事業運営を進めて参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、貴協議会の皆様をはじめ、本日ご参加の皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

## パネルディスカッション

# 『＜原点回帰＞骨髄・末梢血採取で骨髄提供はできたけれど・・・ まだ足りない！「ぼくにはドナーがいません！」』

骨髄バンクボランティアは、全国各地でドナーを増やし、1人でも多くの患者さんが、適合したドナーから骨髄移植を受けられるようドナーリクルートを続けています。

しかし長く活動が続けると本来持っていた情熱が、いつのまにかしぼんでくることもあります。そんな時、原点に戻り、活動を始めた頃に立ち戻り、「何のため・誰のため」ボランティアを続けているのかを思い出し、熱い情熱を再び取り戻せれば、また新たに継続できるのでは・・・

骨髄提供をした2人のドナーさんから提供するきっかけと採取方法の体験を語ってもらいます。2人は患者さんに提供できましたが、まだ適合せずドナーを待ち続けている患者さんがいます。ドナーを待つ田中謙智(けんち)君のお父さん、浩章さんに、ご自身と家族の体験談として現状を伝えていただくと同時に、ドナーを待ち続けるお気持ちと、今後新しいドナーリクルート方法への提言などを話していただき、パネリスト全員で考えていきます。

### 【パネリスト】

#### ◆山中真(やまなかまこと)様

1976年生まれ東京出身。

2001年毎日放送にアナウンサーとして入社。

報道番組、情報番組などを長年担当し、南極など世界50カ国を取材。

現在、情報番組「よんちゃんTV」「せやねん」出演中 子ども4人の父

◇ドナーになったきっかけは池江璃花子さんの報道です。子どもたちがもし・・・  
と考えたらドナー登録は当たり前のことだと思いました。



#### ◆木村亮太(きむらりょうた)様

2007年頃、ドナー登録。

2008年4月、電機メーカー入社。

2012年頃、ドナー候補に選ばれたが、都合により辞退。

2021年、ドナー選定、末梢血幹細胞提供。

◇ドナー登録のきっかけ:映画『半落ち』『Little DJ～小さな恋の物語～』を観たのがきっかけでした。治る病気を当たり前で治せる世の中になるのが望ましいと思ったことと、骨髄ドナーとは実際に何をやるのだろうかという好奇心もあってのことでした。



#### ◆田中浩章(たなかひろあき)様

会社員・ビジネスコンサルタント。血液の難病と闘う5歳児の父。

◇コロナ禍、再生不良性貧血という病と闘う5歳児に付き添う傍ら、骨髄移植を求め苦悩する多くの小児患者、その家族を目の当たりにし、骨髄ドナーが必要な息子、そして多くの小児患者のため、小児患者の長期入院治療生活を支援する活動を始める。



### 【コーディネーター】

#### ◆大谷貴子

全国骨髄バンク推進連絡協議会 副会長

#### ◆若木換

全国骨髄バンク推進連絡協議会 副理事長

## クラウドファンディングの結果報告



「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」(佐藤きち子基金)の存続のために、「白血病の患者さんに移植費用を届けたい。きち子基金継続にご協力を!」と銘打って、クラウドファンディングを実施しました。結果は以下の通りです。

実施期間:2022年2月14日~3月31日  
目標金額:10,000,000円  
寄付総額:10,101,232円  
寄付者:延べ561人

### ●スタートダッシュは一つの配信記事のおかげでした

クラウドファンディングが始まる直前、日頃から血液難病の患者さん支援に関心を持っている時事通信社のI記者が、この企画について「ぜひ記事にしましょう」と協力を買って出てくれ、記事を配信してくれました。2月15日には東京新聞夕刊の社会面のトップ記事にもなるなど多くの新聞に取り上げられ、そのころから寄付金額が急激な勢いで伸び始めました。また、ハンドブックの執筆者でもある日本造血・免疫細胞療法学会の理事長・豊嶋会長が学会のメールニュースに掲載してくれるようご尽力いただき、多くの移植医の先生からたくさんのご寄付が寄せられました。

### ●佐藤きち子さん、あやちゃんの発信力が成功に導いてくれました

26年前、亡くなる直前に「佐藤きち子基金」の元となる資金を提供して下さった佐藤きち子さん、そのきち子さんに大きな影響を与えたあやちゃんというお二人が発信するメッセージに共感する人からのご寄付が続々と集まりました。

あやちゃんのお父さま、お母さま、ごきょうだいのメッセージがインターネット上で発信さ

れるたびに大きな反響を呼びました。

《あやちゃんのお母さまからお寄せいただいたメッセージ》



彩ちゃんの病室で付き添っていたある晩「お母さん、ちょっと横向いていて」と言いながらスケッチブックにさらさらと書いてくれたのが、この似顔絵です。

”私のお母さん”とコメントを付け、暫く枕元の壁にはりました。

看護師さんたちに「彩ちゃん上手だねえ」と褒められると、チョット得意げな表情を見せていたのを思い出します。元気でいたら今年 39 歳、どんな女性に成長していたことでしょう。

当時は骨髄バンクも、ボランティア団体も設立されておらず、骨髄移植をするにも大変困難な状況でした。彩ちゃんも残念ながら骨髄移植はかないませんでした。

私の人生で一番悔やまれることはただ一つ、彩ちゃんをわずか 7 歳で逝かせてしまったことです。

病状が悪くなった時「人間は死んでもまた生まれ変わるんだよね」「今度生まれるときも、この家でこの町で暮らしたい」と言い、自分自身の運命を達観しているかのようでした。

そして残してくれた 8000 枚の絵、彩ちゃんは絵の中で思う存分遊び、また、いろいろな思いやメッセージをたくさん表現してくれました。

生前「画家になりたい」と望んでいた彩ちゃんのことを尊重し、画集「彩ちゃんの贈り物」が出版されました。その画集をきっかけに佐藤きち子さんとの出会いがあり「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」ができました。

彩ちゃんの絵が大きな役割を果たしてくれたことをとても誇りに思います。しかし今その基金の存続が危ぶまれています。

一人でも多くの方がこの基金の目標を理解して下さるようお願いしております。そして一人でも多くの患者さんが救われるよう、どうか皆さまの暖かいご支援をよろしくお願い致します。

三瓶 正子(母)

## ●医療関係者も大きな関心を寄せてくれ、協力してくれました

今回「ハンドブック寄贈企画」を実施しました。寄付者の寄付によりハンドブックを医療機関に贈呈するという企画です。贈呈されたハンドブックは各医療機関を通じ血液難病の患者さんのために役立てられます。高額な設定にもかかわらず、用意したコースすべてに寄付が集まり、4 月末にハンドブックを該当する医療機関に贈呈しました。医療機関からは寄付者に対し、お礼状が送られます。

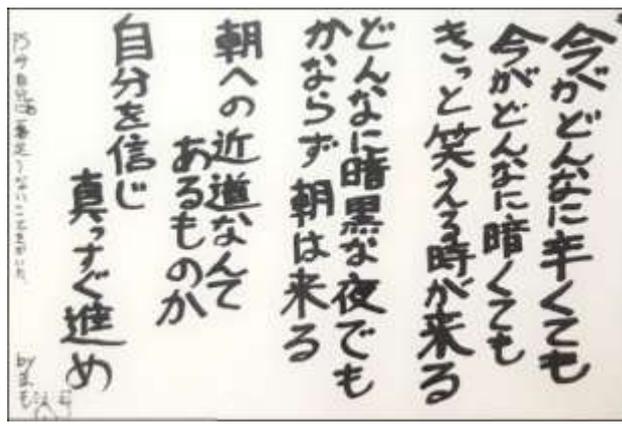
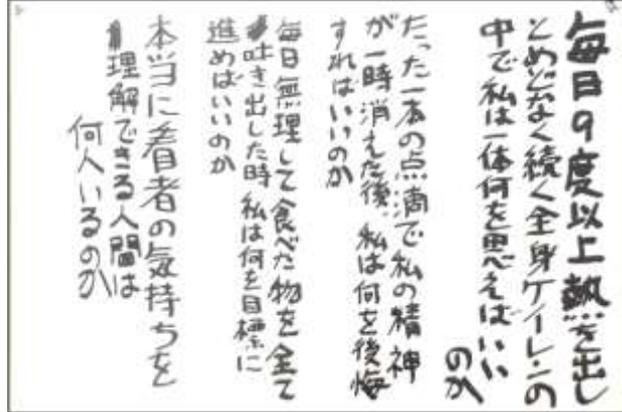
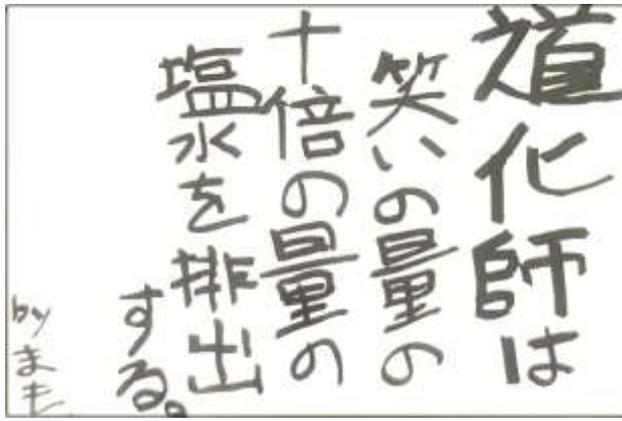
結果は冒頭で紹介した通りです。これで「佐藤きち子基金」は存続の危機を脱することができました。今回、このクラウドファンディングに協力頂いた方に対して心より、深く感謝するとともに、広く社会の皆さんに血液難病の患者さんに対して関心を持って頂けたことを嬉しく感じています。

これからも患者さんのために、いろいろな方が、様々な形で支援活動を行っていきます。その輪が少しでも広がることを祈っています。

誌上パネル展

全国協議会では「ひとりでも多くの患者さんの"いのち"を救いたい」という思いを、全国の皆様にご協力いただくためのパネル展を運営しています。

今回皆様にご協力いただきましたクラウドファンディングにおいても、あやちゃんが描いた絵を見て共感し「今まで血液疾患の患者さんの苦勞を全く知らなかったが、是非患者さんの闘病を支援したい」との申し出を沢山いただきました。できるだけたくさんの方にご覧いただけますよう貸し出しをしておりますので是非ご活用ください。



あやちゃんのお父さんより

彩ちゃんは、保育園、学校、病床で時間の許す限り絵を描き続けました。これからも、命の尊さ、きち子基金の存続を訴えるとともに、患者家族、私たちボランティアを励ましてくれ続けることでしょう。

骨髄バンクを支援する東京の会 三瓶和義

MAMO 君のお母さんより

14歳で白血病を発病し再発を繰り返し、17歳で旅立ったマモ。個室の中孤独な毎日で苦しみました。生きたい、友が欲しい、自由が欲しいと訴え続けたメッセージ、あなたの琴線に触れるものがあるでしょうか？

骨髄バンクを支援するやまがたの会 小野寺南波子

# 認定 NPO 法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会

私たちは、白血病など血液疾患の患者さんとそのご家族を 30 年以上支援し続けているボランティア団体です。支援活動の一部をご紹介します。

(数字は 2022 年 3 月末現在)

## 白血病フリーダイヤル(0120-81-5929)

毎週土曜日にフリーダイヤルで治療のこと、医療費の心配事など血液疾患についてなんでもご相談をお受けしています。第2・第4土曜日には専門医に直接ご相談いただけます。

1996 年7月開始

累計相談日数 1,251 回

受付相談累計件数 8,907 件

## ハンドブック「白血病と言われたら」

白血病フリーダイヤルでの相談は発病されたばかりの患者さんからの問い合わせが多く、それならば知りたい情報を集約して冊子にしようと刊行しました。ホームページから無料ダウンロードもできます。

初版発行 1999 年 8 月

第6版発行 2020 年 5 月

総発行部数 56,000 部(セット)

総ダウンロード数 3,639 件

## 佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

「造血細胞移植治療を望む患者さんが“お金が無くて”あきらめることがないように」と佐藤きち子さんから託された 300 万円から始まった基金です。

経済的に困難な患者さんのため造血細胞移植にかかわる費用の支援をしています。

基金の枯渇から 3 度の休止を超え、26 年。皆さまのご厚志が、不安を抱える患者さんを笑顔に変えています。

1995年9月発足

相談受付件数 652 件(2013 年度から集計)

助成件数 323 件(322 人)

助成総額 88,926,139 円

### 《助成を受けた方のお住まい》

都道府県	助成人数	都道府県	助成人数
北海道	18	滋賀	3
青森	1	京都	12
岩手	4	大阪	20
宮城	4	兵庫	11
秋田	1	奈良	3
山形	1	和歌山	3
福島	3	鳥取	1
茨城	13	島根	1
栃木	4	岡山	7
群馬	5	広島	11
埼玉	12	山口	5
千葉	2	徳島	4
東京	25	香川	3
神奈川	21	愛媛	9
新潟	2	高知	2
富山	4	福岡	17
石川	3	佐賀	2
山梨	2	長崎	3
長野	5	熊本	5
岐阜	5	大分	12
静岡	5	宮崎	3
愛知	30	鹿児島	1
三重	2	沖縄	12
		<b>合計</b>	<b>322</b>

患者支援基金は皆さまからのご寄付で運営しております。

患者さんの経済的不安だけでも解消できるよう基金を続けていくためご支援お願いいたします。

当協議会は東京都認定の NPO 法人です。寄付は税法上の優遇措置の対象となります。

きち子基金

ゆうちょ銀行 〇一九(ぜろいちきゅう)店  
当座 0039724  
口座名義 佐藤きち子患者支援基金

志村基金

ゆうちょ銀行 〇一九(ぜろいちきゅう)店  
当座 0719025  
口座名義 志村大輔患者支援基金

マリン

ゆうちょ銀行 〇一九(ぜろいちきゅう)店  
当座 0586461  
口座名義 こうのとりマリン基金

## 志村大輔基金

志村大輔さんは、慢性骨髄性白血病の分子標的薬の投薬治療を続けるかたわら、同じ病で経済的負担に苦しむ患者さんのため負担軽減を図る活動もされていました。しかし、2012年1月、6年に及ぶ長い闘病の末に39歳の若さで亡くなりました。この基金は彼の遺志を受け継いだご友人が勤務するゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社様からのご寄付により設立されました。

高額な分子標的治療薬の医療費支援と、将来赤ちゃんを授かれるよう治療前に行う精子保存の支援を助成対象としています。

### 2013年1月発足

相談受付件数	774 件
分子標的薬助成件数	532 件 (133 人)
分子標的薬助成総額	27,580,000 円
精子保存助成件数	95 件 (59 人)
精子保存助成総額	3,545,068 円

(当基金は1人の患者さんが複数回申請されます。右の表は純申請者人数です)

## こうのとりマリン基金

若い女性の血液疾患患者さんに、将来赤ちゃんを授かるという希望をもって抗がん剤や造血細胞移植などの治療を乗り越えてもらえるように、東京マリンロータリークラブ様(現:東京港南マリンロータリークラブ様)からのご厚志を原資に、未受精卵子の採取・保存費用を支援しています。

### 2013年11月発足

相談受付件数	177 件
卵子保存助成件数	36 件 (32 人)
卵子保存助成総額	6,278,194 円
体外受精助成件数	2 件 (2 人)
体外受精助成総額	552,680 円

## 《助成を受けた方のお住まい》

### 分子標的薬支援

都道府県	助成人数
北海道	29
岩手	1
宮城	2
群馬	1
埼玉	2
千葉	9
東京	8
神奈川	2
石川	5
山梨	2
長野	1
静岡	1
愛知	8
三重	1
滋賀	2
京都	6
大阪	21
和歌山	2
岡山	4
広島	8
徳島	2
愛媛	2
長崎	1
熊本	5
宮崎	5
鹿児島	1
沖縄	2
合計	133

### 精子保存支援

都道府県	助成人数
北海道	6
宮城	1
秋田	1
山形	1
福島	1
茨城	3
埼玉	3
千葉	3
東京	9
神奈川	5
新潟	2
石川	2
三重	1
滋賀	2
大阪	2
兵庫	3
和歌山	1
鳥取	1
岡山	3
広島	3
愛媛	1
福岡	1
大分	1
宮崎	1
沖縄	2
合計	59

## 《助成を受けた方のお住まい》

### 卵子保存支援

都道府県	助成人数
北海道	2
宮城	1
栃木	2
群馬	1
千葉	1
東京	2
神奈川	1
福井	2
静岡	1
愛知	1
京都	3
大阪	3
奈良	1
広島	2
高知	2
熊本	1
鹿児島	4
沖縄	2
合計	32

### 体外受精支援

都道府県	助成人数
埼玉	1
千葉	1
合計	2

体外受精支援は2018年1月まで

# 全国骨髓バンク推進連絡協議会の活動

全国骨髓バンク推進連絡協議会(全国協議会)は、1990年6月に公的骨髓バンクの設立を望む全国の13団体により結成され、現在では70団体(加盟34協力36)によって全国協議会が支えられています。

全国各地のボランティアによって骨髓バンクの普及啓発やドナー募集が行われており、全国協議会では、全国各地で骨髓バンクの普及啓発、ドナー募集を中心とした草の根の運動を行っている加盟団体への情報提供や、その活動の支援をするほか、各地では行えない患者支援事業、より良い骨髓バンクを育てる活動として厚生労働省、日本骨髓バンク、日本赤十字社などへの要望活動を行っています。

## 私たちの活動

骨髓バンクの普及啓発 患者さんご家族の支援  
ドナーのサポート より良い医療を求める

### ○ 骨髓バンク事業の普及啓発活動とドナー登録者拡大事業(全国各地団体)

全国47都道府県の70団体と連携をしています。

全国協議会で箱根駅伝などスポーツイベントでの啓発を行っています。啓発用グッズを作成して各地団体や地方自治体に活用いただいています。

### ○ 患者さん・ご家族の抱える様々な悩みの相談受付窓口開設

1996年7月に開設した「白血病フリーダイヤル0120-81-5929(ヤマイコクフク)」は毎週土曜日に開設、第2・4土曜日には専門医も相談に対応いたします。病気や治療について、経済的な不安などのご相談を受けています。

移植経験のある元患者や患者家族などの相談員が相談を受け付けています。

### ○ ハンドブック「白血病と言われたら」の発行

「白血病フリーダイヤル」に医学的な質問をはじめ、闘病に伴う数々の深刻な相談が寄せられ、患者・家族がかかえている疑問や課題の解決に役立つ情報をまとめた冊子が必要と考え、1999年8月に、患者・患者家族向けのハンドブックを作成しました。(第1版)

ハンドブック『白血病と言われたら』～病初期の患者さんとそのご家族に向けて～  
白血病と闘うために必要な様々な情報、専門医による病気についての詳細な解説や治療法についての情報をわかりやすく掲載しています。

2020年5月には第6版を発行し、全国協議会のホームページで無料ダウンロードできるようにしました。

## ○ 患者支援事業

経済的に困難な患者さんの闘病生活を支えるため、1996年から寄付金を原資に支援基金を設けています。各基金には収入条件があり各基金運営委員による審査があります。

### ◆「佐藤きち子記念・造血細胞移植患者支援基金」1996年3月発足

<骨髄移植を望みながら経済的な理由で移植できない患者のために>と託して下さった故佐藤きち子さんからの寄付を基に設立し、造血細胞移植の費用を助成しています。

### ◆「志村大輔基金」2013年1月発足

慢性骨髄性白血病の分子標的薬の投薬治療を続けるかたわら、同じ病で経済的負担に苦しむ患者さんのため負担軽減を図る活動もされていた志村大輔さん。

しかし、2012年1月、6年に及ぶ長い闘病の末に39歳の若さで亡くなりました。

この基金は彼の遺志を受け継いだご友人が勤務するゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社様からのご寄付により設立されました。

高額な分子標的治療薬の医療費支援と将来赤ちゃんを授かれるよう治療前に行う精子保存の支援を助成対象としています。

### ◆「こうのとりのマリン基金」2013年11月発足

若い女性の血液疾患患者さんに、将来赤ちゃんを授かるという希望をもって抗がん剤や造血細胞移植などの治療を乗り越えてもらえるようにと、東京マリンロータリークラブ様（現：東京港南マリンロータリークラブ様）からのご厚志を原資に、未受精卵子の採取保存費用の支援をしています。

## ○ 骨髄ドナーの相談受付窓口

骨髄ドナーが抱える様々な問題、疑問についてお話を伺っています。

「ドナーサポートダイヤル 0120-892-106（バンクにとうろく）」で平日お受けしています。

## ○ 機関紙「全国協議会ニュース」を毎月発行

骨髄バンク事業をめぐる関係機関の動きや医療情報、各地ボランティアの活動などを掲載し、行政、議員、関係機関、医療関係者、支援者、各地団体などへ配布しています。

## ○ より良い医療を求める活動

患者さんがより良い移植医療を受けられるよう、厚生労働省、国会議員連盟への要望活動や署名運動、日本骨髄バンク、日本赤十字社などへの要請・提案活動をしています。

===ご相談内容や助成内容など、個人情報に関して守秘義務を厳守します。===

## ご支援のお願い

難治性血液疾患の患者さん、及びそのご家族の支援、並びに全国協議会の運営は皆様の善意の寄付によって支えられています。当協議会の支援活動は長年にわたり、継続して行っている事業が中心のため、恒常的な資金需要があります。皆様のより一層のご支援を賜りたくよろしくお願いたします。

※全国協議会は東京都から「認定 NPO 法人」として認定されていますので、賛助会費や一般寄付は寄付金控除の対象になります。(募金箱による寄付の場合は対象外です。また、募金箱による寄付の場合、寄附金受領証明書(受領書)は発行されません。)

※控除を受ける場合、確定申告書を提出する必要があります。

### 賛助会員

全国協議会の運営を継続的に支えて下さる「賛助会員」を随時募集しています。

特別賛助会員 100,000 円/年額・1 口

一般賛助会員 10,000 円/年額・1 口

サポート会員 3,000 円/年額・1 口

◆1 口以上でお願いいたします。

◆下記事務局まで入会申込書をご請求ください。

### 一般寄付

◆当協議会の HP からお申込み下さい。

◆直接下記口座までご入金いただく場合は受領書発行の為、ご入金日、ご住所、お名前(漢字)お電話番号をメールや FAX でご連絡ください。

【郵便振替口座】 00150-4-15754

【三井住友銀行】

新宿通支店 普通 5666655

口座名義(共通) / 「特定非営利活動法人  
全国骨髓バンク推進連絡協議会」

### 募金箱

募金箱設置にご協力いただける支援者を募集しています。

◆サイズ

高さ 180mm

幅 80mm

奥行 80mm

◆重量

約 200g アクリル製

◆詳しくは当協議会までお問い合わせください。



詳しくは全国協議会のホームページをご覧ください。

トップページ > ご支援 でいろいろな寄付の方法をご確認いただけます。

## 特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会加盟団体一覧

(2022 年 5 月現在)

- ◆ 北海道骨髓バンク推進協会  
【帯広支部】
- ◆ 釧路骨髓バンク推進協会
- ◆ 函館骨髓バンク推進協議会
- ◆ 骨髓バンクを支援する宮城I・O・K
- ◆ 青森県骨髓バンク推進協議会
- ◆ 秋田県骨髓提供者を募る会
- ◆ 骨髓バンクを支援するやまがたの会
- ◆ 福島県骨髓バンク推進連絡協議会  
【郡山支部】  
【県北支部】  
【県南支部】  
【相双支部】
- ◆ 群馬県骨髓バンク推進連絡協議会
- ◆ 埼玉骨髓バンク推進連絡会
- ◆ 千葉骨髓バンク推進連絡会
- ◆ 骨髓バンクを支援する東京の会
- ◆ 骨髓バンクを支える友の会
- ◆ 神奈川骨髓移植を考える会
- ◆ 特定非営利活動法人  
骨髓バンク命のアサガオにいがた
- ◆ 山梨県骨髓バンクを推進する会
- ◆ 特定非営利活動法人  
骨髓バンク長野 ひまわりの会
- ◆ 富山県骨髓バンクを広める会
- ◆ いしかわ骨髓バンク推進・はとの会
- ◆ 岐阜骨髓献血希望者を募る会
- ◆ 認定特定非営利活動法人  
あいち骨髓バンクを支援する会
- ◆ 三重県骨髓バンク推進連絡協議会(勇気の会)
- ◆ 京都骨髓ドナーを募る会
- ◆ 神戸骨髓献血の和を広げる会
- ◆ 姫路地区骨髓バンク推進センター
- ◆ なら骨髓バンクの会
- ◆ 骨髓バンクを支援する山口の会
- ◆ とくしま骨髓バンクを支援する会
- ◆ 血液疾患を考える患者家族の会「リボンの会」
- ◆ NPO法人 福岡子どもホスピスプロジェクト
- ◆ 佐賀県骨髓バンク推進連絡協議会
- ◆ みやぎぎ骨髓バンク推進連絡会議
- ◆ かごしま骨髓バンク推進連絡会議
- ◆ 沖縄県骨髓バンクを支援する会